

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No. 14

日本デイケア学会広報委員会
2007年2月20日 発行
日本デイケア学会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-14
株式会社キタ・メディア内
TEL: 03-3813-6368
FAX: 03-3813-6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
URL: http://www.daycare.gr.jp

**日本デイケア学会第12回年次
大会に向けて**

三浦 彌

日本デイケア学会第11回年次大会が昨年熊本で開催されました。

大会長の三村孝一先生は大会準備途中でご逝去されました。残念な想いをされたことと思います。日本精神科病院協会熊本県支部長である藤本敏雄先生が後を受けられ、大会長として大変なご苦勞をされました。さらに熊本大会の関係者の皆様のご尽力には心打たれるものがありました。学会では、当事者の方々への発言の機会を随所に設けられ学ぶことが多々ありました。第12回年次大会札幌大会におきましても、当事者の参加を企画しております。

平成19年9月13日(木)、14日(金)、15日(土)、北海道札幌市において北海道厚生年金会館ウエルシティ札幌を会場にして、日本デイケア学会第12回年次大会を開催致します。日本デイケア学会は、1996年に日本デイケア研究会として東京医科大学にて第1回大会(大会長 加藤正明先生)が開催され、この大会の総会において設立されました。以来、精神障害者、高齢者の治療としてのデイケアについての研究実践を、学会の場で研鑽してまいりました。学会には医師、看護師、PSW、CP、その他の医療関係者及び大学の先生方等、幅広い分野の方々が参加しております。

平成17年10月31日「障害者自立支援法」が成立し、平成18年4月から精神科での自立支援医療(精神通院)が実施されました。10月からは身体・知的・精神の3障害の福祉サービスを一元化した障害者自立支援法も施行され、平成12年4月に施行された「介護保険法」も平成18年4月に改正されました。精神障害者、高齢者にとっては新たな自覚と困難が求められる局面を迎えています。私達医療に関係する者にとっては、デイケアの実践を医療の一環として行ってきました。今回の改正は私達にも変化を求められております。デイケア

が医療として存続できるのか、あるいは福祉的サービスに位置づけられるのかが問われております。

デイケアが治療として有効であることは、今までの学会の報告に数多く伺われます。デイケアには様々な機能がありますが、当事者が主体的になって企画運営にも参加していく方向が求められています。「デイケア」について考える時期が来ていると思います。

精神科の治療にデイケアが実践されたのは、1946年カナダのキャメロン、1948年英国のビエラによるもので、デイホスピタルとして始まりました。日本では国立精神保健研究所において1963年から研究が始まり、1974年に診療報酬「精神科デイケア料」が新設されました。精神科治療には薬物治療は重要ですが、リハビリテーションとしてのデイケアは障害を持った人の能力を改善し、人生上の目的に立ち返ってその能力を発揮してもらうために重要な治療法として、研究、実践してきております。

今大会のテーマは『デイケアの本格的転機に立ち向かうー新制度(障害者自立支援法・介護保険法改正)施行で新たな実践ー』です。新制度は障害者の自立と就労を目標としております。しかしその反面、制度の利用には経済的負担が増え、精神的にも負担が増えております。シンポジウムでは、新制度のもとでデイケアの本来のあるべき実践を求めて、新しい試みや新たな変化を模索いたします。デイケアは今歴史を振り返り、今までに蓄積した経験に学び、次の時代に伝えていくことが必要と思われます。今回の大会第2日目午後「鼎談」という形で3名の先生方をお願いいたしました。お一人は柏木昭先生(現日本デイケア学会理事長)です。先生は日本デイケア学会の歴史を知る代表です。お一人は伊東嘉弘先生(元札幌デイケアセンター所長)です。先生は北海道の精神科デイケアの草分け的役割を果たしてこられた大先輩です。もう一人は、先輩の教えを受けて次に受けていく役割を、若手で意欲的に活躍されている直江裕之先生(旭川直江クリニック)をお願いしております。

今までの実践を基に、治療的効果を確認し、精神障害

者、高齢者にとって有益となる新たな実践を試行していくために今回の学会において、各地の研究報告、講演等を企画しております。本学会の趣旨をご理解いただき、多くの方々のご協力とご参加をお願いいたします。

(日本デイケア学会第12回年次大会札幌大会大会長)
(医療法人社団三浦メンタルクリニック理事長)
(北海道精神神経診療所協会会長)

日本デイケア学会第11回年次大会を終えて

藤本敏雄

日本デイケア学会第11回年次大会は、「心豊かな生活を支援するために～デイケアの実践、そして挑戦」を大会テーマとして、平成18年9月21・22・23日の三日間に渡って九州熊本市にて開催させていただきました。

当日は素晴らしい秋晴れに恵まれ、1100名を超える参加者があり、主催者としてご協力頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

今大会を主催するに当たっては、準備の途中、大会会長を予定された三村孝一先生の急逝という不幸に見舞われ、一時は開催そのものが危ぶまれましたが生前の先生の意を酌み、熊本県精神化病院協会が一体となって取り組みました。協会のチームワークと県老健協会、県老施協会の協力を得て、実施がない素晴らしい大会が開催できたのではないかと思います。

大会プログラムとして、記念講演を2題、特別講演、精神科及び高齢者それぞれに、シンポジウムとセミナーを用意し、更に一般演題も69題（ポスターセッションも含め）を用意しました。特に記念講演では、大会長講演を取り止めて、学会理事長柏木昭先生にお願いしましたが、先生には、学会11年目の始まりとして「改めてデイケアの意義を問う」のご講演を頂きました。会員の皆様には身の引き締まるお話ではなかったかと思います。それぞれのプログラムの内容につきましては学会プログラムに目を通して頂くとして文面の都合上割愛させていただきますが、今回は自立支援法の施行と介護保険法における介護予防給付の施行という2つの制度についての課題が中心となりました。それぞれを通じて、施行する側（国）と実践する側（医療・福祉機関）との乖離など、問題点が浮き彫りにされた学会ではなかったかと思います。

今大会では、地方での開催として、参加していただく方々に出来るだけ楽しんで頂こうと「和やかさ」に特に配慮しました。このため、特別講演では、熊本を拠点に50年間カントリーミュージシャンとして活躍さ

れているチャーリー永谷氏にカントリーソングの弾き語りを交えた講演をしてもらいました。また恒例の懇親会も、交流という域を越えた和やかさで最後には会場一体となって「おてもやん」を踊るなど盛会でした。

学会の締めくくりは、市民講座で、認知症のお母さんの介護を経験された歌手の橋幸夫氏に『夢の架け橋』より、介護・家族・人生とはの講演を頂き、学会参加者と一般市民およそ1,000名の観衆が最後まで熱心に聞き入りました。

今大会の成功を、亡き三村孝一先生にご報告すると共に、ここに改めて、準備に当たってくれたスタッフの方々、全国各地から参加いただいた方々に心より御礼申し上げます。

次期大会は、北海道となりますが、さらに素晴らしい学会を期待いたします。

(日本精神科病院協会熊本県支部)

長信田の森心療クリニック ～地域に根ざし、生き方を支援 できる医療・教育を目指して～

水野淳一郎

当クリニックは閉鎖的な精神医療・閉塞的な精神衛生にある東北の精神風土に風穴を開けるべく、「あるもの（旧弊）を壊す、ないものを創る」、「客待ちから出前へ」と発信する精神衛生活動、治療と教育を融合した「育む精神医療」をスローガンに、平成13年10月1日山本町（現三種町）石倉山の麓（交通面では不便であるが自然豊かな場所）に開院。開院にあたっては、リスクも大きかったが、これまでの症状治療を主眼とする治療論に対する疑念から、生き方の体験学習を通して成長促進的治療を目指す、といういささかの挑戦心を抱き医療・教育を融合させた活動を展開している。その対象は小中学生から青年期の若者が主であるが、当初は絶望の淵にいた子どもたちも少しずつ夢を描けるようになるにつれ、その実現に向けてデイケアの活動自体も深化し内容的にも広がって来ていると言えよう。

<長信田の森の活動とその実績>

長信田の森は、精神科診療所と集団寄宿生活による若者の社会化教育を目的とした「生活塾自在館」の二施設から成っている。両者を繋いで育む精神医療を展開する場がデイケアである。アクセスに不便な農山村の地に在りながらも、全外来者の約15%、自在館利用の7割が県外者である（新患数約45人/月、総実数2700人/5年間）。相談内容では全外来者の約6

割が青少年に関わる諸問題であるところから、青少年の医療・育成においては県域を越えた全国区的な活動になっている。また、精神衛生活動の発信、システム創りや連携も北東北三県にまたがる活動を展開している。以下にその内容を記したい。

1. 学校臨床と学校精神衛生活動

- a) 秋田県教委の教育行政に参画：地域生徒指導協議会専門指導委員、学校特区「スペース・イオ」の評議員として、全県の学校不適応問題に取り組んできている。
- b) 高校教育課程の認定を取得：全国に先駆けて精神科が通信制高校のサポート校となった。すでに8名の卒業生を送り出し、現在在校生は12名。
- c) デイケア利用の不登校児は、当然だが学校では出席扱いの評定。
- d) 「学校臨床事例検討会」：教師・カウンセラー向け、毎月1回開催
- e) 「発達障害児支援セミナー」：教師・親向け、毎週1回開催

2. 青少年の精神衛生活動

- a) 不登校・引きこもりの精神衛生教育：市民、教育者向けの公開講座を各種開催。県内では年3回、岩手県、青森県、宮城県などでは年1-2回。各県の青少年自立支援団体や親の会との連携活動。
- b) 非行臨床：精神医療機関が家庭裁判所による「補導委託」先に認定された全国的にも珍しい事例。非行集団や病理家族と引き離れた治療教育が望ましいと審判が下された事例が自在館を利用。現在まで10名の利用。

3. 家族会の創設と家族会による精神衛生活動

- a) 「家族教室」：心病む子どもを持つ親のための心理教育・集団療法の間、毎週1回開催
- b) 「家族会」：疾病の質、種類に拘らず子どもの問題を抱える親が横で繋がるための組織であり、秋田全県向けには「かだれ会」が、院内家族会としては「ミマの会」が結成された。かだれ会は引きこもり・ニート問題に悩む親の会で毎月1回秋田市内でミーティングを中心とした自助グループ的活動を展開している。ミマの会で

は嫁という弱い立場にありがちな女性たちが「女性の井戸端会議」を月2回開催し、ピア・カウンセリングの間となっている。さらにミマの会では「喫茶・リエゾン」を敷地内に開店しクリニック利用の子どもたちに就労体験の間を提供している。

4. 産業精神衛生：秋田県職員の相談機関、保健同人社EAPおよびジャパンEAPシステムズ社の認定相談機関
5. 地域精神衛生：地域住民を子どもの指導者としてデイケア活動に招聘したり、地域の祭り等各種イベントに子どもたちが出場する活動から地域の精神衛生の敷居を低くしている。また郡市医師会に「精神保健委員会」を創設し、内科医・小児科医、家裁、警察少年補導との連携、研究会活動などを図っている。
6. 臨床系大学との連携：秋田大学医学部6年生の精神科実習の機関。そのほか県内外の福祉・心理臨床系大学の実習機関として認定を受け、多数の学生が研修を積んでいる。

<長信田の森のデイケアの特徴>

当クリニックのデイケアには不登校・引きこもり体験のある若者（10代前半～30代前半：平均年齢20.7歳）が日々35名前後集まっている。「自然体験」「身体活動」「集団心理療法」をベースとし各種「表現療法」（図1）を取り入れて他者理解を深め、自己の内面に向き合い、そして共同作業の達成感を育めるようなプログラムを構造化している。

近年は、ベースに発達障害が認められる参加者が増加している。彼らには障害の特性から小グループ化し、物理的に緩い枠の中で「もの・こと」を創造するといった体験プロセスを提供し、その結果、徐々にではあるがそのスキルの獲得や情緒的な深まりが得られてきている（図2）。今後は、デイケア活動のevidenceを発信できるように臨床の知を高めていきたい。

（精神保健福祉士）

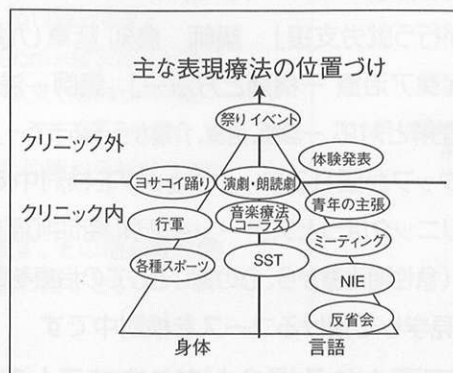


図1

具体的小グループプログラムの実施例		
約1ヶ月前後の練習期間を経てクリニック内外での発表会を実施する。		
具体例	分野	内容
	表現	朗読劇（3月）
	表現	演劇（7月）
	表現	キャンプ・寸劇（8ヶ月）
	音楽	コーラス（7月）
	音楽	和太鼓（7月）
	美術	砂像大会（7月）
	スポーツ	ヨサコイ踊り（7月）
	スポーツ	駅伝（9月）

図2

日本デイケア学会第12回年次大会のご案内

大会テーマ

デイケアの本格的転機に立ち向かう

『新制度(障害者自立支援法・介護保険法改正)施行で新たな実践』

大会長

三浦

わたる

(北海道精神神経診療所協会会長/医療法人社団三浦メンタルクリニック理事長)

大会URL

<http://www.daycare12.org/>

(日本デイケア学会で検索して下さい)

重要
こちらのホームページの『演題登録』から
「演題申込と抄録原稿」を同時に受け付けます。
演題受付期間は平成19年2月1日(木)から5月1日(火)までと
なります。『参加登録』は随時ご案内致しますが、方法は
JTB北海道への参加申込書をダウンロードして頂き、記載の
上、JTB北海道へFAXして頂くという従来の様式を使います。

会 期

平成19年9月13日(木)・14日(金)・15日(土)

学 会：平成19年9月13日(木)・14日(金)

研修会・ワークショップ・見学会：平成19年9月15日(土)

会 場

北海道厚生年金会館 ウェルシティ札幌

〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目

TEL：011-231-9551 / FAX：011-261-1704

URL：<http://www.hokkaido-koseinenkin.com>

札幌市内地下鉄東西線西11丁目すぐ

特別講演 I

「精神保健福祉の動向と精神科デイケアの今後

～障害者自立支援法施行後の障害者の社会参加支援～」

築島 健(札幌市精神保健福祉センター所長)

記念講演

「歴史に学び、時代の要請に応えるデイケア・デイサービス」

柏木 昭(日本デイケア学会理事長・聖学院大学大学院教授)

※記念講演は総会と併せて行なわれる講演です。総会からご参加下さい。

特別講演 II

「精神科デイケアとはなにか、そのねらいと方法と果実」

PART1

伊東嘉弘(桑園病院顧問・元札幌デイケアセンター所長)

鼎談会

「これからのデイケア～次世代のリーダーの役割」(仮)

PART2

柏木 昭(日本デイケア学会理事長・聖学院大学大学院教授)

伊東嘉弘(桑園病院顧問・元札幌デイケアセンター所長)

直江裕之(直江クリニック院長)

司会：三浦 彌

(医療法人社団三浦メンタルクリニック理事長・北海道精神神経診療所協会会長)

シンポジウム(高齢者)

「介護保険法改正で高齢者デイケアはどう変わるか」(仮)

シンポジウム(精神科)

「デイケアでの新しい試み」

ランチョン特別企画

デイケアメンバーによる「笑顔の私達を披露します」(仮)

参加者参加型企画

・参加者による同一パネルによるコラージュ創りなど
・参加者による体験コーナー(予定)

各デイケアの紹介コーナーやデイケア
作品展示なども現在企画中です!

研修会(精神科)

「デイケアが行う就労支援」 講師 倉知 延章(九州ルーテル学院大学人文学部教授)

研修会(精神科)

「精神科デイケア治療 一構造と方法一」 講師 浅野 弘毅(東北福祉大学健康科学部教授)

研修会(高齢者)

「認知症の理解と対応 一診断、治療、介護から予防まで一」 講師 宮澤 仁朗(ときわ病院院長)

ワークショップ

デイケアスタッフが語れるワークショップを検討中です

見学会(Aコース)

デイケアクリニックほっとステーション(札幌市中心部のビル診療から展開する究極の就労支援)

見学会(Bコース)

五稜会病院(急性期治療から、心の癒しとしての治療を提供するストレスケア病棟のこだわり)

見学会(Cコース)

地域展開を見学して頂けるコースを検討中です

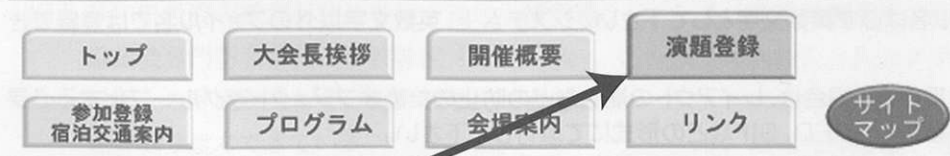
※上記内容について変更される場合がありますことをご了承下さい

◎演題募集について◎

日本デイケア学会第12回年次大会では、デイケアに関する演題を広く募集します。

Conference of Day Care Treatment The 12th Annual Meeting in Sapporo

日本デイケア学会 第12回年次大会 in 札幌



平成19年
2月1日(木)
から
募集します

今回はホームページ上で演題申し込みと抄録原稿を同時に受付ます。

(ホームページ、「演題登録」より受付できます)

今大会ホームページ <http://www.daycare12.org/>

演題および抄録原稿の締切日は、平成19年5月1日(火)まで を予定しております(オンライン登録)。演題を申し込まれる方は、ホームページの演題募集要領をよくお読みの上、基本事項(氏名/所属/住所/演題名/口述・ポスターの別/E-mailアドレス等)を入力後抄録(Wordファイル)を添付してお申し込み下さい。投稿者には登録完了後、受領をメールでお知らせいたします(24時間以内)。尚、採否通知やその他のお知らせに関しましても後日メールにてお知らせいたします。

《募集要項》

【口述発表】

- 演題発表は口述1演題12分、質疑応答を3分予定しております。
- 口述発表は、口述のみ、またはPCプレゼンテーションは(MicrosoftPowerPoint)を原則と致します。(スライド・OHP等の準備はいたしません)尚、PCプレゼンテーションはWindowsのみに限らせて頂きます。パワーポイント使用時の動画・音声使用は不可ですのでご注意ください。

【ポスター発表】

- 演題発表はポスター1演題6分、質疑応答を4分予定しております。
- 掲示用スペースとして横(90cm)、縦(140cm)のスペースを用意します。
- ポスターセッション指定時間には、展示ポスター前に待機して下さい。
- 作成については下記を参照して下さい。

※1演題につき1スペースとして作成して下さい。

- ①演題番号は大会事務局で作成し、貼付致します。
- ②演題及び施設名と発表者名(横70cm×縦20cm)は図のように貼付して下さい。以下本文(横84cm×縦120cm)を貼付して下さい。
- ③文字や図表の大きさは、2m離れた位置からもしっかり見えるようにして下さい。
- ④画鋏などは大会事務局で準備します。その他必要な物については大会事務局にお問い合わせ下さい。



《抄録原稿の作成について》

口述・ポスター発表ともに以下の要領にて作成して下さい。

- ・抄録（演題名、副題名、演者名（主演者に○印）及び所属・職種・共同演者名及び所属、抄録本文）はMicrosoft Wordにて作成して下さい。
- ・抄録本文は必ず1000字以内として下さい（上記、演題名、副題名、演者名等含む）。
（ツールから文字カウントで確認出来ます）
- ・Macintoshで作成される場合は、ファイルに拡張子「.doc」を必ず付けて下さい。
- ・作成されたWordのファイル名は必ず英数文字として下さい。システム上、英数文字以外のファイル名では登録できない可能性があります。
- ・演題抄録原稿には図表を使用される場合は、レイアウトの崩れなどの防止のためオブジェクトをグループ化する必要があります。写真や画像の場合は、JPED、GIFなどの形式にて添付して下さい。

《その他の注意事項》

- 発表内容は、個人や団体の基本的人権を尊重し、プライバシーの保護に考慮して下さい。そのために、個人や団体名が特定されないような措置を講じて下さい。
- 演題抄録にプライバシーの侵害が危惧される場合や偏見、差別的な用語や内容が認められる場合には問い合わせの上、訂正を求める場合がありますので、ご了承下さい。

《発表時間その他のお知らせについて》

- 演題申し込み締め切り後、演題の採否結果及び会場や時間について、「日本デイケア学会12回年次大会運営委員会」で協議の上、各演者申込者宛にE-mailにて通知致します（6月上旬予定）。
- パワーポイントを使用される方（口述発表者）は、発表データをフロッピーディスクまたはCD-Rに保存して8月1日（水）までに下記までお送り下さい。

発表データ送付先（お問い合わせはFAXまたはE-Mailにてお願い致します。）

〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西5丁目17-2 プレジデント松井ビル100 11F
てくてく工房（日本デイケア学会 第12回年次大会 演題登録係）
TEL 011-241-0656
FAX 011-241-0616
E-Mail: info@tektek-kobo.com

※ご注意※

- ◎演題発表される方（共同演者も含む）は日本デイケア学会会員の資格が必要となります。
学会会員でない方は申し込みの時点で入会手続きをお願いします。
入会手続きについては学会ホームページをご参照の上お申し込み下さい。（<http://www.daycare.gr.jp/>）

**演題（口述・ポスター）申込及び抄録原稿登録期限……平成19年5月1日（火）
「パワーポイントFD・CD-R」……平成19年8月1日（水）必着[送付]**

※ホームページ上で演題申し込みが出来ない環境の方は下記事務局で別途対応しますのでご相談下さい。

大会事務局（お問い合わせはFAXまたはE-Mailにてお願いいたします。）

〒063-0061 北海道札幌市西区西町北6丁目4-14
医療法人社団 三浦メンタルクリニック内
日本デイケア学会第12回年次大会事務局 担当：高瀬・永井
TEL 011-666-2714（留守電対応）
FAX 011-661-2662
E-Mail: sapporo-daycare12@miura-mentalclinic.jp
今大会ホームページ : <http://www.daycare12.org/>

うつ病と不安障害のデイケア施設

五十嵐良雄

虎ノ門の付近には統合失調症の方はあまりおられません。精神障害者も障害者としてカウントされるようになったとはいえ、会社で雇用されることには困難な点はまだあるのだと思います。したがって当院の受診患者はうつ病と不安障害が9割以上を占めます。彼らの診療を続けていて、大きな課題は3割以上の方が休職となり、復職しても再休職に至るケースが多いことです。

仕事から離れ休養をとることにより確かに病状は安定し、回復してきます。病状が相当改善され、仕事はもう大丈夫であろうと判断して復職させても再休職するケースが多いことに気がつきました。結果的には診察場面のみでは復職可能か否かの判断は困難な場合がかなりあったのです。復職が可能かどうかのトライアルを、「リワーク・カレッジ」と名づけたデイケア施設において試すことを2年前にはじめました。

デイケアはこれまで2箇所の精神科病院で立ち上げた経験がありますが、現在の当院の「リワーク・カレッジ」は有りようが全く異なります。大きな違いの第一は疾患が異なることです。全員がうつ病と不安障害です。このごろうつ病の中には不安障害を基盤に発症してくるうつ病も多いといえます。気分変調症あるいは神経症性うつ病などがそれにあたるでしょう。彼らの症状はさほど重くはありませんが長年続きます。すなわち何回も休職を繰り返す場合が多く、本人たちの焦りも強いのです。また、他罰的傾向も見られるので職員の心理的負担は強くなります。

第二には、統合失調症中心のデイケアとは異なりきわめて短期間の利用で「リワーク・カレッジ」を通過していくことです。平均3ヶ月程度で終了していますので、新たな利用者がどんどん入ってきます。常に目新しい利用者が職員の前にいることになりますが、状態が改善するとデイケアは終了となるので常に状態の悪い利用者を見ていることになります。この点でも職員にかかる心理的負担は決して小さくありません。

このように当院の「リワーク・カレッジ」は職員に大きな心理的負担をかけつつ2年間に200名近くの卒業生を出してきました。昨年から卒業生と利用者との交流会を「clubリワーク・カレッジ」と名づけ

て始めました。うまく復職できて服薬も止められた卒業生も出てきており、利用者ばかりでなく職員の大きな励みにもなっています。

(医療法人雄仁会 メディカルケア虎ノ門 院長)

デイケアと共に～12年間の応援と拒絶～

星島 一太

12年前、体育教師を目指し上京してきた男がなぜか精神科の診療所でデイケアを担当することになった。スクールウォーズの滝沢先生のように体当たりで生徒と共に涙を流し、金八先生のように四六時中、町を駆け回る。そんな熱苦しい熱血体育教師の即席ソーシャルワーカーが百戦錬磨のアル中おやじに巻き込まれるのにそれほど時間はかからなかった。ある時は抗酒剤を飲んでもらうために冬の寒空の中、5時間も家の前に正座して待った。ある時は酒を飲ませないために年末年始、一緒に山谷のドヤに泊まった。携帯番号をメンバーに伝え、休日、深夜問わずSOSのTELで出動した。「俺があの人を救うんだ！今俺が手を離したらいったい誰があの人を救えるんだ！」再三の同僚からの戒めの言葉も耳に入らず私はこう熱っぽく語っていた。応援していた。しかし結果は共倒れ。私は倒れ、メンバーは更に崩れた。言いようの無い裏切られ感と怒り。それもそのはず。私が応援していたのは実は自分だったのだから。そこに気づけない私は怒って職場を変え、そこで本人の問題は本人に返す「直面化」の技法を学んだ。距離感や境界線を常に頭に入れ、問題は本人に返していく。非常に楽だった。本人が悩むべき問題は本人が悩めばいい。私が悩む必要は全くない。至極簡単な理論であった。しかし私はこの技法を乱用するようになる。「治療の枠を守らない方はお帰りください。回復のお手伝いはできますが、飲むお手伝いはできませんのでお引取りください」。正しい方法だと思う。特にスタッフとメンバーの距離が近くなりやすいデイケアでは、このような「できること」「できないこと」の線引きをしっかりと行っていくことは非常に重要である。しかし浅はかだった当時の私は使い方を間違い、自分の思い通りにならないメンバーへの私自身の「怒り」を、直面化という大義名分を借りてメンバーにぶつけていただけであ

った。これが拒絶であろう。数年後、酒を止めはしたものの、眉間に皺を寄せながら「頑張ります」と語るメンバーや、底つきの為だと離婚や別居を決意してもらったその家族の未だに苦しそうな表情を見る度、傲慢な自分が重ねてきた「援助という名の虐待」に胸が張り裂けそうになった。今、私は最初に怒りを持った職場に戻り、アルコールや薬物だけでなく、ギャンブルや摂食障害、リストカット、シンドローム、ひきこもりなど、現代社会に生まれた新たな生きづらさの病に広く向きあわせてもらっている。また、家族グループや子育て支援グループ、EAP活動、そして幼稚園から大学まで広くメンタル

ヘルス教育を行えるようになるなどソーシャルワークの幅も広がってきている。ほんの少し広がった視野とほんの少し離れた視点からデイケアという景色を眺めた時、私の関わり方にも変化がでてきた。今、私は「直面化」や「否認」などという言葉から少し視点をずらし今一度、応援しまくろうと思っている。勿論、私自身の価値観だけで応援すると、逆に相手を傷つけてしまうこともあるのでそこは気をつけたい。何にしても、基本はしっかり「聴く」ことなのだろう。自分の「怒り」や「不安」にきちんと向き合いながら。

(榎本クリニック)

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約800名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正 会 員：入会金1,000円＋年会費8,000円＝9,000円

団体会員：3名までは、入会金5,000円＋年会費20,000円＝25,000円

(3名を越えるときは、1名につき年会費5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-14 株式会社キタ・メディア内 日本デイケア学会事務局

TEL&FAX：03-3813-6368 e-mail：info@daycare.gr.jp URL：http://www.daycare.gr.jp

キリトリ線(ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。)

入会申込書(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名	フリガナ	性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種	所属先名称 (勤務先)							
所属先 所在地	〒			電話番号	()			